

## 聖徳大学短期大学部 自己点検・評価の総括（2019 年度）

令和 2 年 6 月 26 日  
自己点検・評価委員会

聖徳大学短期大学部では 2019 年度、聖徳大学と共通の独自の点検・評価基準を設定して自己評価を実施しました。これは、各学科に対し統一で求める点検基準・観点と到達目標を示し、客観的な数値データによる判定と学科の自己点検・評価による判定を組み合わせる形で自己評価を行ったものです。その結果、以下のとおりの成果と課題及び今後の方向性としてまとめました。

### 1. 自己点検・評価で確認された教育改革への取り組みの成果

まず特筆すべき成果として、2013（平成 25）年度より取り組んできた「聖徳夢プロジェクト」をはじめとする様々な教育改革へ取り組みの成果が、2019（令和元）年度の実就職率 92.7%といった形で出口の成果として表れてきたことが点検・評価活動を通じて明らかになりました。

また、2017（平成 29）年度に「聖徳大学短期大学部アセスメント・ポリシー」を策定し、三つの方針を起点とした内部質保証体制の確立に、全学科をあげて取り組んだ結果、ディプロマ・ポリシーで示す学習成果の獲得に向け教育内容の改善に取り組む PDCA サイクルが、各学科で整いつつあることも確認できました。

さらに、保育科、総合文化学科の両学科では、学生へのディプロマ・ポリシーに関するアンケートを実施する等、学生の学習成果の獲得実感を調査しており、学習成果の測定・把握や可視化に積極的に取り組んでいました。これは 4 年制の他の学部・学科との比較においても特徴的な成果であると言えます。

### 2. 自己点検・評価により検出された課題

各学科の自己評価結果及び「成果と課題」の記述内容から導き出される課題は次の通りになります。以下、具体的事例と共に示します。

- ① 学生からの意見聴取や外部評価で得られた課題の改善に取り組み、フィードバックを行う必要があること。

各学科とも、学生からの意見聴取や卒業生及びその進路先からの意見聴取を丁寧に行っていることまでは確認できました。今後は、そこから得られた課題を教育内容の改善に結び付け、その結果や成果の積極的なフィードバックを学科マネジメントの下で組織的に実施してゆくことが課題となります。

- ② 授業アンケート、成績評価の管理・改善について、学科の組織的なマネジメント体制

を整える必要があること。

授業アンケートと成績評価の管理・改善について、個々の教員の改善状況や改善の成果を学科が主体となり把握・管理し、学科全体の質の向上に結びつく取り組みにしてください。学科が組織として個々の教員の改善状況を把握し、マネジメントすることが求められています。

③ 全学をあげて入学定員及び収容定員充足率の向上に取り組む必要があること。

安定的な財政基盤の確保のためにも、各学科の入学定員及び収容定員以上の学生を確保することは喫緊の課題です。各学科は、魅力ある教育内容による学びの特色化と、教育改善による学生満足度の向上に取り組むと共に、全学的な取り組みとして中途退学者の削減に向けた取り組みを早急に進める必要があります。

### 3. 今後の方向性

今回の自己点検・評価の結果、各学科において教員個々のレベルでの改善活動や取り組みは概ね実施されていることが確認できました。今後は、そこで生まれた課題や得られた成果を、学科単位のマネジメントの下で集約し結合させて関連付け、組織的な取り組みの中で成果と課題を把握し、改善に取り組むことが各学科に求められます。また、意見聴取等によって得られた課題を改善に結びつけ、その成果や結果を積極的にフィードバックしてゆくことも必要となります。

### 4. まとめ

自己点検・評価への取り組みにより、早期に自ら課題を発見し、その改善に取り組むことで質の向上につながるようになります。その際、自己評価の視点は、外部からの評価にも耐えうる程度に厳しめに設定しておくことが望ましいと考えられます。

短期大学共通の自己点検・評価項目と目標とする基準が設定され、到達目標が共通に示されたことは大きな意味を持ちます。今後、自己点検・評価と課題抽出、改善のPDCAサイクルを継続しながら、よりレベルの高い点検と改善サイクルの構築により、早期の定員充足と質の高い教育の実現を達成することが命題となります。

以上